

表 1

FAX : 03-5800-9173

送付先：東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センター 健診情報学講座

12 月 19 日（金）までにご返信をお願いいたします。

担当：生井・栃木

特定健診・特定保健指導に関する アンケート調査

厚生労働科学研究循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
健康日本 21 の中間評価、糖尿病等の「今後の生活習慣病対策の推進について（中間とりまとめ）」
を踏まえた今後の生活習慣病対策のためのエビデンス構築に関する研究

貴施設についてご記入ください。後日、調査結果をお送りします。

貴施設の名称		
ご住所		
お電話番号	お電話番号 — —	
E-mail	E-mail _____ @ _____	
ご担当者様のお名前		役職：

問4. 特定健診時に実施している質問票についてお伺いします。(○は一つ)

- | |
|------------------------------|
| 1 厚生労働確定版※の「標準的な質問票」どおり |
| 2 厚生労働確定版※の「標準的な質問票」に独自項目を追加 |
| 3 すべて独自項目 |

※標準的な健診・保健指導プログラム(確定版)別紙3 標準的な質問票

【Ⅱ. 特定健診・特定保健指導データの処理・管理についてお伺いします】

問5. 健診機関から保険者へのデータ提出は原則として電子的標準様式で行われることになっております。

これについて貴施設のご対応をお伺いします。(○は1つ)

- | | | |
|----------|--------------------|--------|
| 1 対応予定なし | 2 将来対応予定(対応作業中も含む) | 3 対応済み |
|----------|--------------------|--------|

※電子的標準様式については、専用ホームページ <http://tokuteikenshin.jp> をご覧ください。

問6. 問5.で1(対応予定無し)、2(将来対応予定)とお答えいただいた方にお伺いします。

健診機関から保険者への実施報告に際し、現在どのような形式でデータ提出を行っていますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------------|--------------|--------------|
| 1 紙 | 2 CSV 型式ファイル | 3 EXCEL ファイル |
| 4 独自定義の XML ファイル | 5 その他 () | |

問7. 問5.2(将来対応予定)とお答えいただいた方にお伺いします。

標準的な電子データ様式への対応予定時期はいつ頃でしょうか。

- | | | | |
|-----------|-------|--------|---------|
| 1 現在作業中 | 2 今年中 | 3 今年度中 | 4 来年度以降 |
| 5 その他 () | | | |

問8. 問5で3(対応済み)とお答えいただいた方にお伺いします。

標準的な電子データ様式の電子ファイルをどのように作成していますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------|-------------|----------|
| 1 システムベンダー側で対応 | 2 フリーソフトで対応 | 3 貴施設で対応 |
|----------------|-------------|----------|

問9. 問8でフリーソフトを利用されている方にお伺いします。どのようなフリーソフトを使用されていますか。

(○は1つ)

1 <http://tokuteikenshin.jp>で紹介されているフリーソフト (下記から選択してください。)

1-1 CSV→XML変換ソフト

1-2 特定健診簡易入力システム (開発元: オーダーメイド創薬 (株))

1-3 特定健診・特定保健指導管理システム EZ2008 (開発元: (株) ケーアイエス)

2 その他

()

問10. 貴施設が契約されている団体から標準的電子データ様式とは別に CSV や紙などの別型式でのデータ提供を求められていますか。

(○は1つ)

1 はい

(理由:)

2 いいえ

問11. 標準的な電子データ様式で管理すべき範囲として、どこまでを望まれますか。

(○は1つ)

1 特定健診のみ

2 特定健診+事業所健診※

3 特定健診+人間ドック

4 特定健診+がん検診

5 その他 ()

※労働安全衛生法で規定されている定期健康診断

【Ⅲ. 特定健診の検査実施体制についてお伺いします。】

特定健診制度では、LDL コレステロールなどの検体検査について独立行政法人産業技術総合研究所等から提供された「標準物質」使って基準値を較正するように求めています。

問12. 特定健診制度では、検体検査について標準物質を使って基準値を出すように求めています。そのことをご存知でしたか。(○は1つ)

- 1 知っていて、すでに対応している 2 知っているが、まだ対応していない 3 知らなかった

問13. 貴機関における検査値の較正法についてお伺いします。(○は1つ)

- 1 すべての検査を標準物質で較正している。
2 特定健診の検査のみ標準物質で較正している
3 標準物質以外で較正し、標準物質の値に換算している
4 標準物質以外で較正し、そのまま報告している
5 その他

()

問14. 問13.で2,3を選ばれた方にお伺いいたします。貴機関での標準物質の採用予定時期はいつ頃でしょうか。(○は1つ)

- 1 今年度中(時期) 2 来年度中(時期) 3 未定
4 その他()

【IV. 最後に「特定健診・特定保健指導」について、ご意見・ご要望等をご自由にご記入ください】



以上で終わりです。ご協力有難うございました。

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業）
分担研究報告書

健康日本21の中間評価、糖尿病等の「今後の生活習慣病対策の推進について（中間取りまとめ）」を踏まえた今後の生活習慣病対策のためのエビデンス構築に関する研究

臨床医学領域、メタボリックシンドローム

研究分担者 宮崎 滋 所属 東京通信病院 内科

研究協力者 陳 里菜 所属 東京通信病院 内科

研究要旨:3日間のメタボリックシンドローム教育入院を実施し、患者の生活習慣の改善、意識改革に対する指導を行った。この教育入院を経験した患者を対象に、6ヵ月後における非薬物的治療効果を検討した。退院後6ヶ月を経過した時点で内臓脂肪の減少をはじめとする各種代謝パラメーターの改善を認め、教育入院による動機づけはメタボリックシンドロームの予防、進展防止に有用と考えられた。

A. 研究目的

【目的】当院では2006年4月より2泊3日のメタボリックシンドローム教育入院を実施し、患者の生活習慣の改善、意識改革のための指導を行っている。この教育入院を経験した患者を対象に、6ヵ月後における非薬物的治療効果を検討した。

B. 研究方法

当院のメタボリックシンドローム教育入院に参加し、退院後およそ6ヶ月後に再受診し診察、検査（血液検査、脂肪CT検査）を行った36名（平均年齢55.1±1.8歳、男性31名、女性5名）を対象とした。食事療法は標準体重あたり25~28kcal/kgで指導し、食事記録表に食事内容を記録させ1日摂取カロリーを計算した。運動療法は中等度の運動強度（PR120/min程度）の有酸素運動の指導を実践的に行った。

（倫理面への配慮）

東京通信病院倫理委員会の承認を受け、それに従い研究を実施した。患者個人情報を得るにあたっては同意を得た。

C. 研究結果

BMIは28.7±0.7から26.3±0.5 ($p<.0001$)、ウエスト周囲径は98.4±1.7から91.8±1.3 (cm) ($p<.0001$)、収縮期血圧は144±2.8から138±2.6(mmHg) ($p=0.04$)と有意に改善を認めたが、拡張期血圧は有意な改善を認めなかった。TGは212±17から154±13(mg/dl) ($p=0.0002$)、HDL-cは45.0±1.7から50.6±1.9(mg/dl) ($p<.0001$)と有意に改善を認めた。糖代謝ではFPG、HOMA-Rは有意な改善を認めなかったが、HbA1cは6.1±0.56から5.7±0.11(%)と有意に改善を認めた($p=0.001$)。腹部CTによる内臓脂肪面積は133.5±3.9から99.2±5.0cm²、皮下脂肪面積は196.1±17から151.7±13cm²と有意に減少していた($p<.0001$)。内臓脂肪面積減少率と各種パラメーターの減少率の相関関係をみると、ウエスト周囲径減少率($r=0.66$ $p<.0001$)、体重減少率($r=0.62$ $p<.0001$)、尿酸変化率($r=0.44$ $p=0.006$)との間には有意な相関関係がみられた。TG減少率との間には相関がみられた($r=0.32$ $p=0.05$)がHbA1c、HDL-c変化率との間には相関が得られなかった。

D. 考察

わずか 3 日間の講義を主とする教育であったにもかかわらず、終了後 6 ヶ月以上にわたって体重、ウエスト周囲径の減少のみならず、TG、HDL-C、血圧などの改善が持続していた。メタボリックシンドロームは検査値の異常も軽度であり、患者自身もその重大性を理解していないことが多く、疾患の理解を深めるためには教育の意義が大きい。3 日間ではあるが、系統だった教育を受けることは、疾患予後に大きく関係するものと考えられる。今回教育を受けてから 6 ヶ月以上経過しても、体重、ウエスト周囲径などが改善し、代謝パラメーターの改善が継続していることが確認されたことは、メタボリックシンドロームの進展予防、改善に教育入院という方法が有効であり、今後その有効性を更に高めるよう教育体系を検討したい。また多くの施設で教室を開設することは、メタボリックシンドロームの病態理解を深め、その予防、改善に寄与し、ひいては国民の健康意識を高めることに貢献するのではないかと考えられる。

E. 結論

3 日間のメタボリックシンドローム教育入院での動機づけにより、退院後 6 ヶ月を経過しても、内臓脂肪の減少をはじめとする各種代謝パラメーターの改善が維持されていることを認めた。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 宮崎滋、肥満・肥満症・メタボリックシンドローム、研究と診療の統合と展開、肥満研究、14: 93-99、2008
- 2) メタボリックシンドローム教室、Q&A でわかる療養指導、宮崎 滋編著、中外医学社、東京、2009

2. 学会発表

- 1) 陳里菜、小野真理、濱田勝彦、川村光信、宮崎滋、平田結喜緒、3 日間のメタボリックシンドローム教育入院における治療効果 (第 2 報)、肥満研究、14 (Suppl.) 131、2008
- 2) Shigeru Miyazaki, Makiko Abe, Rina Chin and Mitsunobu Kawamura, Effects of life style modification in 3-days hospitalization on cardiovascular risk factors. Controversies to Consensus in Diabetes, Obesity and Hypertension, The 2nd World Congress, 2008, 70A, Barcelona, Spain

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特になし

健康日本21の中間評価、糖尿病等の「今後の生活習慣病対策の推進について（中間取りまとめ）」を踏まえた今後の生活習慣病対策のためエビデンス構築に関する研究

米国におけるヘルスリテラシー向上のための方策— —健康学習センターHealth Learning Centerの構想

野添篤毅 愛知淑徳大学名誉教授

緒方裕光 国立保健医療科学院

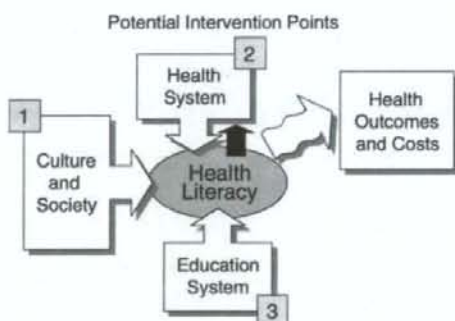
磯野 威 国立保健医療科学院

1. ヘルスリテラシー

米国においてヘルスリテラシーの考え方に重点がおかれたのは米国の健康施策のための指標 Healthy People 2010 の第11章ヘルスコミュニケーションの中での目標に健康リテラシーが取り上げられたことであろう (ref 1)。また、米国科学アカデミー (National Academy of Science: NAS)、医学研究所 (Institute of Medicine: IOM) のヘルスリテラシー委員会によって 2004 年に「ヘルスリテラシー：混乱を終わらせるための処方箋」と題して 345 ページにも渡る報告書が発表されたことも重要である (ref 2)。この委員会は米国成人の半数約 9000 万人もの人が健康情報の理解に困難を持っているという現状認識からヘルスリテラシーの向上の問題に取り組んでいる。

この中で「ヘルスリテラシー」は「健康への適切な意志決定をするために必要とされる基本的な健康情報やサービスを入手、処理、理解するために個人が有する能力の度合い」と定義されている。IOM の報告書では (図 1) のようなヘルスリテラシーの枠組みが提示されている。ここでは、ヘルス

リテラシーは個人個人の文化と社会との、教育システムとの、健康・医療システムとのそれぞれとの相互関係の影響、およびその結果もたらされるヘルスアウトカム、コストへの要因を図式化している。



(図1) ヘルスリテラシーの考え方のための枠組み (NAS-IOM, 2004)

健康医学情報サービスの観点から見たヘルスリテラシーの考え方、および日米での研究動向については酒井が詳細にレビューしている (ref 3)。

Healthy People 2010 の提言を受けて米国国立医学図書館(National Library of Medicine: NLM)は2006年に館の長期計画書(Long Range Plan)を発表しているが、その中につきのようなヘルスリテラシー向上のための目標が含まれていることは注目に値する(ref 4)。

生物医学データ、医学知識、健康情報へのシームレスで、常に障害のないアクセスを可能にする。

ヘルスリテラシーの促進と健康格差を減少させるために、信頼できる情報を提供する。この目標実現のためにNLMはこれまでの医療従事者中心であったサービス対象を一般の人々、いわゆる消費者(consumer)にまで拡大することに方針転換を計った。そのひとつの象徴的な表れは、2004年5月にNLMのホームページの利用者別案内欄に「The Public」(一般の人々)の表示が医療専門職(Health Care Professionals)よりも上の最上段に示されるようにウェブデザインが改訂されたことである。そしてヘルスリテラシーの強化を含む国の強力な健康政策に対しては、NLMは一般消費者に対して質の高い、信頼のおける医学・医療・健康情報を提供するサイトとしてMEDLINEplus (<http://medlineplus.gov>)を1998年10月に開設している。これらの動きは医療界における「根拠に基づく医療」(Evidence-based Medicine: EBM)からも大きな影響を受けている。

MEDLINEplus はこれまでのようなデータベース検索サービスではなく、NLMによって評価・選択された既存の健康関連ウェブサイトを掲載したリンク集、あるいはポータルサイトである。疾患、医薬品、医療機

関・団体などに関する信頼のおけるウェブサイトを、そして医学事典などの情報資源が解りやすいウェブデザインのもとで格納されている。現在ではパソコン画面で可能な自学自習用ための種々の疾患チュートリアルや手術の場面のビデオ映像なども提供され、消費者の病気などの医学知識への正しい理解のための、すなわちヘルスリテラシー向上のための質の高いツールとして評価されている。

MEDLINEplus は消費者の健康意識の高まりやインターネットを使って健康情報を探索する人(health information seeker)の増大に伴って、文献データベース PubMed 以上の成果を示し、年間一億人から8億5千万ページが閲覧されるまでに急激に成長している。そして医学研究の成果としての文献書誌情報サービス PubMed と、そして研究成果論文のデジタル貯蔵庫 PubMed Central、信頼できる医学知識を集積したサイト MEDLINEplus の3つのサービスが有機的に結合されることによってNLMは一般の人々のヘルスリテラシー向上に大きな役割を果たしている(ref 5)。

消費者に対しての健康情報サービス提供についてはNLMを頂点として、次のような情報関連拠点が整備されている。

全国医学図書館ネットワーク(National Network of Libraries of Medicine: NN/LM)

ウェブ版地域健康情報センター・プロジェクト(Go Local)

病院図書館

独立の健康図書館

公共図書館

米国全土にある医学・健康関連の図書館、約4,500がNLMを頂点とするNN/LMのネットワークで結ばれ、情報の共有、情報専門家の養成の活動を行っている。国内の各地域、州レベル、郡レベルではNLMの支援によって構築されたウェブ上に提供されるGo Localと呼ばれる地域健康センターが活動している。Go LocalにはMEDLINEplusを中心として、それに地域独自の健康情報を加えたポータルサイトを構築し地域住民のヘルスリテラシー向上に役立っている。

(<http://www.nlm.nih.gov/medlineplus/go-local/>) また、病院に由来から設置されている患者図書室も消費者健康情報サービスの大きな要となってきたが、最近患者図書室でのサービスを一步踏み込んだ新しい形態の機関が出現している。

プレーンツリー健康図書館(PlainTree Health Library)やスタンフォード健康図書館(Stanford Health Library)は独立した組織として消費者に質の高い健康情報を提供することで有名である。また、公共図書館も健康情報提供については関心が高く、健康・医学データベースの導入、MEDLINEplusの紹介、各種の健康セミナーの開催、健康・医療のレファレンスサービスなど活発に活動している。(ref. 6, 7)。

2. 健康学習センターの活動

2008年5月シカゴでの米国医学図書館協会年次大会で、「患者教育と消費者健康図書館：患者ケア改善のためのコラボレーション」と題するワークショップが開催され

た。ここではヘルスリテラシー研究の第一人者であるDavid Baker博士が、臨床医と患者教育と消費者健康図書館の密接な協力関係を築くことによって患者のヘルスリテラシー向上し、ひいては患者ケアの改善につながることを強調した(ref. 8)。そしてこの考え方を基礎にして、ノースウエスタン大学病院内(Northwestern Memorial Hospital)に新たな施設、健康学習センター(Health Learning Center: HLC)が企画・創設された。

(<http://www.nmh.org/nmh/hlc/about.htm>) 健康学習センターは従来から病院内に設置されていた図書館員によって運営されてきた患者図書室を発展させて、医療チームと各種の職種からなる情報提供者とが協力して情報提供することによって患者のヘルスリテラシーを増進させる組織として構想された。この構想の実現化についてはこの病院の内科医であり、またヘルスリテラシー研究者であるD. Bakerが深く関与している。

1999年5月に創設されたHLCには種々の医療、情報、コミュニケーションなどの職種がスタッフとして参画している。健康教育、コミュニケーション、健康情報、看護等の専門職、そして医学図書館員である。患者は医師、医療スタッフからHLCを紹介・依頼(provider referral)されることによって、HLCを訪れ、情報専門家から1人1人に適切で信頼できる健康・医療情報を提供される。医師、看護師、などのからのHLCへの紹介は電子メールや情報提供のための処方箋とも言うべき紹介フォーム(図2)で行われる。この方式はNLMがMEDLINEplusを普及するために情報処方箋(Information prescription)の用紙を作成

して臨床医に配布しているプログラムに類似している。もちろん患者は照会がなくとも自分の意思でセンターを尋ね、スタッフから個人的にコンサルテーションを受けることもできる。このようにHLCの活動は病院の患者ケアのサイクルに組み込まれている。

(図2)健康学習センターへの紹介フォーム

Northwestern Memorial Hospital

Health Learning Center Referral

Name _____ Date _____

Medical Condition/Reason for Referral _____

Please provide this patient with the following information:

<input type="checkbox"/> Overview of Diagnosis	<input type="checkbox"/> Preparation for Surgery	<input type="checkbox"/> Medication Information
<input type="checkbox"/> Exercise	<input type="checkbox"/> Preparation for Procedures	<input type="checkbox"/> Nutrition/Diet
<input type="checkbox"/> Stress Management/Coping	<input type="checkbox"/> Integrative Therapy	<input type="checkbox"/> Support Networks
<input type="checkbox"/> ACS Cancer Navigator	<input type="checkbox"/> Smoking Cessation	
<input type="checkbox"/> Other _____		

Referring Provider _____

Office Address _____

Northwestern Memorial's Health Learning Center is your link to health information. The center is located on the third floor of the Geller Pavilion and can be contacted by calling 312.635.2326 (24hr) or e-mail hlc@nmh.org. The Health Learning Center is open Monday to Friday from 9 a.m. to 5:30 p.m., Saturdays until 7 p.m.

患者への情報提供のための資料、ツールとしてHLCには医学専門書、患者向け医学・健康図書、パンフレット、患者用ビデオ、各種の健康データベースにつながったオンライン端末、医療模型などが用意されている。また医療専門家による種々のセミナー、ワークショップが患者、家族のために開催されている。

現在はHLCのサイト上には病気、ウェルネス、医療の問題などについて患者がたやすく情報を探ることができるようにするための道筋を示すツール、いわゆるパスファインダー(pathfinder)が用意されている(喘息の例——図3)。このパスファインダーには、病気ごとに、主要なインターネット情報源、図書、雑誌論文(医学専門誌、健康雑誌からの)、ビデオ、医学模型、な

どが的確にリストされ情報の洪水に流されないで質の高い参考とすべき情報源に到達できるようになっている。また、病気についての最新情報がウェブ上のWebCastとして音声で提供されるプログラムもある。

このように健康学習センターでは、医療専門職を含めた情報専門家による健康情報の探索・提供と、患者の自己学習のための印刷体およびデジタルの各種ツールの作成・提供、そしてセミナーの開催、ウェブでの情報提供と、幅広い活動が行われヘルスリテラシー向上に寄与している。

(図3)健康学習センターのパスファインダーの例(喘息)

<http://www.nmh.org/nmh/hlc/references/dct/asthma.htm>

Northwestern Memorial Hospital

Asthma

Asthma is an inflammatory disease of the airways, which can cause wheezing, shortness of breath and coughing. An attack can be triggered by exposure to allergens, exercise, stress and even certain medications. Asthma can affect both children and adults. Proper management of this disease can significantly alleviate the symptoms.

Internet Resources

American Lung Association
(<http://www.lungusa.org/>)
The mission of the American Lung Association is to support research to find the cure for and prevention of asthma and other lung disorders, and to improve the quality of life for those affected by respiratory diseases.

MedlinePlus: Asthma
(<http://www.nlm.nih.gov/medlineplus/asthma.html>)
Developed by the National Library of Medicine specifically for consumers, MedlinePlus provides a portal to both government-sponsored and privately developed health information for the lay public. Includes links to current news, tips for asthma management, statistics and relevant organizations.

National Institute of Allergy and Infectious Diseases: Asthma
(<http://www.niaid.nih.gov/publications/asthma.htm>)
Provides links to U.S. government news releases, fact sheets, brochures and other publications about asthma.

Books

- 100 Questions and Answers about Your Child's Asthma. Pictel C. 2008.
- Asthma Sourcebook. Adams EV. 2007.
- Action Plan for Allergies. Birner W. 2007.
- Asthma. Gale Encyclopedia of Medicine, 3rd ed. v.1: 424-430. Cramer D. 2005.
- Asthma and Stress. Encyclopedia of Health and Behavior. v.1: 77-81. Wright R. 2004.
- My House is Killing Me!: The Home Guide for Families With Allergies and Asthma. May J. 2001.
- Conversations About Asthma. Lichtenstein L. 1998.
- Essential Guide to Asthma. American Medical Association. 1998.
- American Lung Association Family Guide to Asthma and Allergies. Edelman N. 1997.

Journal Articles

- "Asthma may increase risk of anxiety and depression." *Harvard Mental Health Letter*, 24(10): 7, April 2008.
- "Asthma: Triggers and treatments." *Health News*, 13(7): 9-10, July 2007.
- "Chronic Cough: It Can be Helped." *Mayo Clinic Health Letter*, 24(3): 1-3, March 2006.
- "Asthma: Grown-Ups Have It, Too." *Harvard Health Letter*, 30(6): 4-5, April 2005.
- "Asthma in Women After Menopause." *Health News*, 11(4): 4-5, April 2005.
- "Breathing exercise may ease asthma symptoms." *Mayo Clinic Women's Healthsource*, 8(6): 3, June 2004.

Videos

- Asthma in Children. 30 min.
Living With Asthma. 30 min.

Contact Us

For more information, please contact the Health Learning Center at 212-926-3463 or HLC@nrmh.org.
Review Date: 10/08

ノースウエスタン大学病院の健康学習センターは病院内にあるHLSを中心として、女性の健康に特化した女性健康学習センター(Women's Health Learning Center)とリハビリテーション病院にあるサテライトセンターの3施設によって構成されている。このほかテキサス大学のMD Andersonがんセンターにはがん情報に特化した健康学習センターLearning Centerが作られ、医学図書館員のほか、健康教育、患者教育の専門家、健康情報専門家などがスタッフとして参加している。また全米の病院を中心として、これまでの患者図書室の活動を一歩進めた、医療チームと協働して情報提供をする健康学習センターが創設され活動しつつある。

米国においてはヘルスリテラシー向上のために、NLMの健康情報ポータルサイトMEDLINEplus、ウェブ版地域健康情報センターGo Localなどのインターネット・サービスネットワークと、施設内に設けられた患者図書室、そしてここで述べた新しい構想で作られた健康学習センターなどがそれぞれに機能を分担し、かつ協調して活動することによってあらたな成果をあげつつ

あることに注目したい。

(参考文献)

1) US Department of Health and Human Services. *Healthy People 2010*, <http://www.healthypeople.gov/default.htm>

2) Nielson-Bohlman, L., et al. *Health Literacy: a prescription to end confusion*. National Academy Press, 2004, 345p.

3) 酒井由紀子。ヘルスリテラシー研究と図書館情報学分野の関与：一般市民向け健康医学情報サービスの基盤として。Library and Information Science. 2008. 59: 117-146.

4) National Library of Medicine Board of Regents. *Charting a course for the 21st Century: NLM's Long range plan 2006-2016*. National Institutes of Health. 2006.66p. (NIH publication no.07-4890)

(<http://www.nlm.nih.gov/pubs/plan/>)

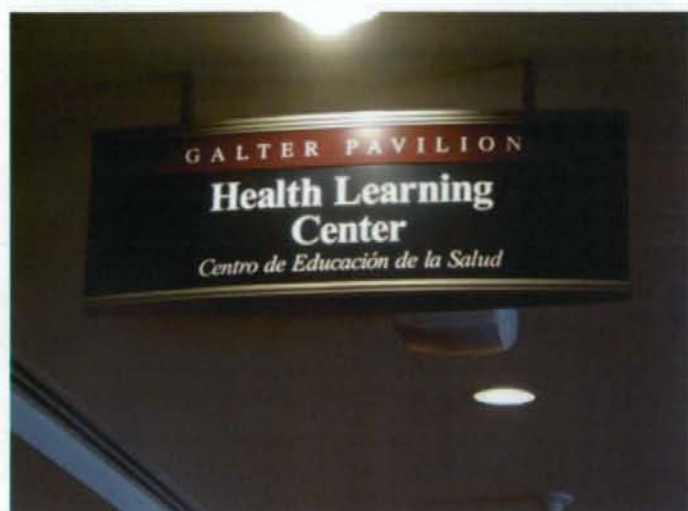
5) 野添篤毅。医学文献情報サービスから健康情報サービスへの展開：MEDLARSからMEDLINE/PubMed、そしてMEDLINEplusへ。情報管理。2007. 50(9): 580-593.

6) 酒井由紀子。“北米における消費者健康情報(Consumer Health Information)の歴史と現状”。健康・医学情報を市民へ(JMLA叢書3)。日本医学図書館協会。2004. p. 67-130.

7) アンドレア・ケニヨン、バーバラ・カシーニ(野添篤毅監訳)。公共図書館員のための消費者健康情報提供ガイド。日本図書館協会。2007. 262p.

8) Baker, D.W., The meaning and the measure of health literacy. *Journal of General Internal Medicine*. 2006, 21: 878-883.

ノースウエスタン大学病院(Northwestern Memorial Hospital) 健康学習センター(Health Learning Center: HLC)の实景



(図4) HLCの入口 (スペイン語も)



(図5) HLCの入口の案内表示 (無料で健康情報が、自分でゆっくりと調べる、セミナーもあります)



(図6) HLCの内部 (利用者用のオンライン端末)



(図7) HLC—健康情報パンフレットの棚 (NIH, がん協会などのものが多数)



(図8) 栄養・食事模型



(図9) HLC一書架 (医学分野の基本テキストブックも並ぶ)



Women's Health Learning Center, Northwestern Hospital

(図10) 女性健康学習センター



(図11) 女性健康学習センター—落ち着いた個人キャレル (スタッフによるコンサルティングにも使用出来る)



(図12) 女性健康学習センター—図書とパネル、医学模型

「健康日本21の中間評価、糖尿病等の「今後の生活習慣病対策の推進について（中間取りまとめ）」を踏まえた今後の生活習慣病対策のためのエビデンス構築に関する研究

「健康情報リテラシーと医学図書館員の役割」

山口直比古 東邦大学医学メディアセンター

緒方 裕光 国立保健医療科学院

磯野 威 国立保健医療科学院

I はじめに

リテラシーとは、ある能力、特に読み書きのできる能力のことをいうが、健康情報リテラシーとはどのような能力で、なぜそれが必要であるとされるのであろうか。

本章では、健康情報リテラシーの歴史的、政策的背景に触れ、健康情報流通の実態調査を紹介する。さらに、情報のアウトリーチという観点から、医学図書館員の役割について考える。具体的には患者図書室、インターネットによる情報発信、地域社会の中などで医学図書館員にできること、などについて提案する。

II 健康情報リテラシーとは何か

最近「ヘルスリテラシー」または「健康リテラシー」という言葉をよく耳にする。中山は健康リテラシーとは「個人が健康情報に関する情報をうまく利用できるスキル、すなわち保健、医療、福祉研究分野における個人の読み、書き、そろばんの力」とわかりやすく説明している。¹⁾ さらに「健康情報を読み解く能力つまり健康情報リテラシーが鍵になる。正しく理解した情報をもとに適切な意思決定し行動すること

は、現代社会での生活に求められるスキルの1つ」であると述べている。

健康に過ごせる環境を作るとは世界的に広まりを見せる1つの動きであるが、WHOが1998年に出版したグロッサリーの中で、ヘルスリテラシーとは「よい健康を維持促進するために情報へアクセスし、理解し、活用する動機付けと能力を決定する認知的、社会的スキル」であるとしている。

²⁾ この定義は、専門家向けに作られているので中山のほうが言葉の説明としてはわかりやすい。

通常、健康リテラシーと広い意味で言う場合、薬をもらうときの説明書とか1日食後3回服用することや1回3錠飲むなど、これを理解できる能力のことを言う。さらには、健康を維持するための様々な広い意味での情報（新聞、テレビ、報道されるもの、あるいは図書館にひきつけていけば、学術情報）を正しく理解する能力であるといえる。従って健康リテラシーとは通常、情報をうまく理解し利用できる能力、すなわち情報リテラシーをいうのであるが、ここでは健康情報リテラシーと呼ぶことによって、より狭い意味で健康情報を読み解く